

# みんなの広場



▲市庁舎に一足先に春が訪れました。所沢市造園建設業協会の協力で飾られた「安行寒桜」。3月16日の「第13回所沢市国際交流フォーラム」でも、ピンク色のかれんな桜が会場に一花添えました。  
3月9日(日)～16日(日)/市役所1階・市民ホール  
(撮影/市民カメラマン・谷 亮)



▲市内の伝統芸能を披露した「第8回伝統芸能発表会」は、2年に1度開催されています。日々精進を重ね、芸能の技を磨くことは、未来に伝統芸能を継承し、将来所沢の財産となることでしょう。  
3月9日(日)/ミューズ・中ホール



▲こんなときどうする?子どもたちの命を守るために開催された「小児救急講習会」では、心肺蘇生法を学ぶお母さんたちの真剣な表情が印象的でした。  
3月6日(木)/市消防本部



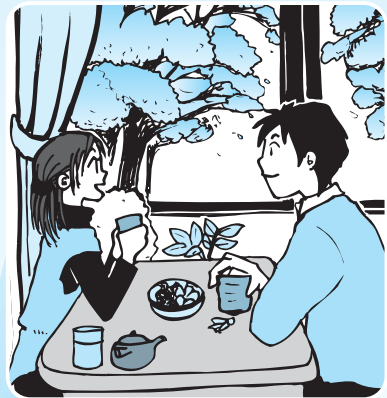
▲多彩なイベントで盛り上がった「第7回所沢市生涯学習フェスティバル」。透き通る音色が響く「オカリナの演奏体験」の会場では、優しい時間が流れていました。  
3月8日(土)～9日(日)/生涯学習センター  
(撮影/市民カメラマン・松崎 満)

## 試して楽エコ!!

～茶がらの利用法～

春本番です。風が強くほこりっぽいときや、雨が降ったと思えば、一転翌日は夏の陽気になるなど、変わりやすい天気を感じます。暦の上では、4月4日は「清明(清らかで明るい季節という意味)」、4月20日は「穀雨(春の雨に穀物が潤うの意味)」、5月1日の「八十八夜」へと続きます。

そして、そろそろ香り高い新茶の時期です。食前、食後、気分転換などに欠かせないティータイム。おいしくいただいた後の茶がらにも、お茶のよい香りや有効成分が含まれています。お茶の特徴を生かした、くらしに役立つ茶がらの利用方法をご紹介します。



### 掃除に・・・

茶がらを固く絞って水気を切ります。玄関や部屋(畳やフローリング)を掃除する際、隅に撒いてほうきで掃いていくと、湿った茶がらがほこりや小さなゴミを吸着してくれます。カテキンなどの成分も残っているため、消臭作用も期待できますね。

### 脱臭に・・・

茶がらをからからになるまで乾かし、ガーゼなどの目の粗い布に包んで冷蔵庫や下駄箱に入れるといやな臭いを吸い取ってくれます。



「エコ」は、節約や我慢とイメージされがちですが、ちょっとした工夫でくらしが楽しく豊かになります。皆さんもできることから始めてみましょう。今号でこのコーナーは終了します。ご愛読ありがとうございます。問い合わせ リサイクルふれあい館・エコロ(☎2994-5374・FAX2994-1118)

### 皆さんからの写真や投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『ウォーキング』▶文章は添削あり▶締め切りは4月7日(日)必着▶掲載者には記念品を進呈▶いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。

## はつらつ野老っ子



皆さん、「バルーンアート」を見たことがありますか?動物や乗り物などの形をカラフルな細長い風船を何本も使って創作する技です。このバルーンを操る人を「バルーンアーティスト」と呼びます。今回ご紹介する山北由香さんは、今年の1月にアメリカ・アリゾナ州フェニックスで行われたバルーンアートの世界的なコンテスト『ダイヤモンドジャム』に出場し、パフォーマンス部門で見事に優勝を果たしたバルーンアーティストです。山北さんは、昨年の国内のツイスターズコンテストでも優勝しているバルーンアーティストの第一人者です。世界のひのき舞台に立ち、これまでは与えられたテーマに沿って80㎡の作品を審査するというものでしたが、アメリカでの競技は10分間のショーを観客の前で演じなければならずとても緊張したそうです。「日本でもコンピを組んでいる新山順子さんと楽しみながら演じて優勝できたことがとてもうれしく、自信にもつながりました」と優勝の喜びを話してくれました。

笑顔で語るその口調からはとても想像できませんが、日々の努力

## 所沢の街をバルーンで飾りたい

山北 由香さん(金山町在住)

の積み重ねがあってこそ、アメリカでの栄光を勝ち得たことは言うまでもありません。所沢で生まれ育った山北さんは、世界の舞台で活躍する傍ら、地元での活動にも精力的です。所沢発祥のバルーンチーム『風船集団バタフライ』に所属し、メンバーとともに市民フェスティバルやところざわまつりへの参加、プロバスケットボールチーム『埼玉ブロンコス』の試合前のパフォーマンスへの出演、所沢出身の歌手『JULEPS』や『Assy』のコンサート会場の装飾、保育園や小学校のイベントへの協力など枚挙にいとまがありません。「大好きな所沢のために、これからもバルーンで貢献していきたい。将来、所沢の街をたくさんのバルーンで飾りたい!」と大きな夢を語ります。4月5日(土)・6日(日)に所沢航空記念公園で開催される市民文化フェアでは、山北さんのパフォーマンスが見られます。皆さんぜひ文化フェアに行きましょ!



コンテストの様子(左が山北さん)

## 歴史再発見 ところざわの文化財

### 航空発祥の地 ～所沢飛行場跡地～

所沢市は「航空発祥の地」と呼ばれていますが、これは日本で初めての飛行場が開設されたことにちなんでいます。明治40年(1907)、欧米における航空術の研究が実用化され始め、日本でも軍事上の必要性から、2年後の明治42年(1909)に臨時軍用気球研究会が発足され、研究が始まりました。ライト兄弟による初の飛行成功からわずか4年後のことです。研究会の最初の仕事は、飛行場の候補地の選定でした。東京近辺における候補地の実地調査が行われ、その結果第1候補地として所沢の地が選ばれました。候補地は、このほか栃木県大田原や千葉県下志津(現佐倉市)などがあがっていましたが、落雷の危険や土地の起伏が少ないことなどが選ばれた理由となったようです。飛行場の整備は、明治43年(1910)10月に着工し、格納庫・気象観測所・滑走路などが造られました。初飛行は、明治44年4月5日午前4時に開始されました。まず徳川好敬大尉がアンリファルマン機で5時10分に15m飛揚し1分で着陸。続いて日野熊蔵大尉がライト機で50m上昇し、飛行距離4,000m、3分30秒の飛行時間を記録しました。その後も飛行訓練が行われ、距離や時間が飛躍的に伸びていきました。この快挙に所沢の住民はもとより、各地から多くの見学者が、飛行を一目見ようと集まり、訓練日には桟敷が設けられ、飛翔のたびに歓声が上がったといわれています。このように日本の航空技術の進歩に大きく貢献した所沢飛行場ですが、現在もその跡地には所沢航空記念公園や所沢航空発祥記念館、東京航空交通管制部など、航空発祥の地にふさわしい施設が整備され、その歴史を今に伝えています。3年後の平成23年(2011)には、飛行場開設100周年を迎えます。問い合わせ 文化財保護課(☎2998-9253・FAX2998-9128)



▲桜の咲く所沢航空記念公園

### 誰でもエッセイ

◆「新入社員」

和ヶ原・山ノ井 義治

毎年、桜のころになると、大勢の新人が全国各地から入社してくる。ぎこちないあいさつも初々しい新人に出会うと、はるか来し方の高度経済成長期にさしかかる前の、自己の新人時代が投影されて、懐かしい思い出が浮かぶ。春先に黄色味を帯びた若い葉が出たあとで、古い硬い葉が落ちて行くゆずり葉が連想されて、一抹のほろ苦さも感じる。敬語が使えない。報告・連絡・相談に慣れない。同じ間違いを繰り返すなど、新人が気を付けなければならないことは多い。ミスにめげず、いつまでも指示待ちで動く自分から率先して取り組んでいく姿勢が大切だと思う。

上町入初めの経験

新入社員には、配属前に泊り込みの研修がありました。やる気と不安が交錯するなか、研修の最終日に、配属先の上司が迎えに来ます。同期との別れの余韻に浸る間もなく、上司はどんな人なのか、迎える待つ緊張は最高潮。ついに自分の名前が呼ばれました。裏返す声で返事をしたのも覚えていません。上司に軽くあいさつを交わしたあとは、犯人のように駐車場まで連行され、上司の車の助手席に座りました。自分の勤務先は土・日の勤務があるため、車の中で真っ先に「今日の土・日は用事があるので、休暇をください!」と喋ってしまいましたが、上司は笑いながら「分かった。分かった。あ、あ、あ、休暇届の書き方を教えてあげよう」と優しい言葉。今でも忘れられない初めてのお願でした。

夢に向かう

小手指町・熊倉 理紗

「本に囲まれた所で働きたい。それは私が子どものころから抱いていた夢です。しかし、最初にそのようなことを考えたときはまだ漠然とした思いでした。その思いを具体的な形に変えたのは、高校生のときでした。進路に悩んでいた私に、小さいころからの私の夢を知っていた母は、市役所職員という道を薦めてくれました。図書館は市役所の管轄なので、その道なら私の夢を叶えられる可能性が高いとも教えてくれました。その日から市役所職員になるという新しい夢ができました。現在、私は市役所職員になることができず、夢も抱きながら、今日も一生懸命働いています。」